

(著作権の関係等により、ホームページ上に掲載することができない資料を一部割愛しております)

令和2年2月3日(月)
令和元年度
大阪府立狭山池博物館運営審議会

資料
1



令和元年度 大阪府立狭山池博物館運営審議会

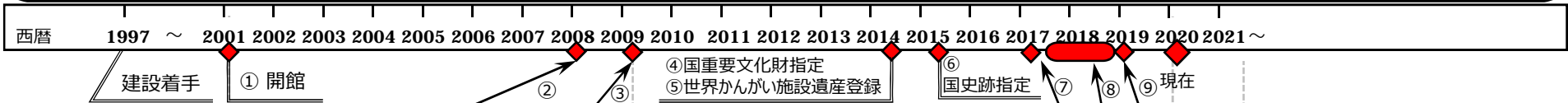
令和2年2月3日

令和元年度 大阪府立狭山池博物館運営審議会 目次

1. これまでの運営経過
2. 中間答申の概要
3. 今後の運営展開の変更について
4. 取組み目標と成果指標の設定
5. 取組み状況の報告
6. 取組みに対する自己評価
7. 今後の集中取組み期間とその後の進め方
8. 令和2年度の具体的な取組み

1. これまでの運営経過

- ① 2001(H13)年 3月 博物館開館
 ⇒② 2008(H20)年 6月 財政再建プログラム(案)における見直し
 ⇒③ 2009(H21)年 3月 三者協働運営開始
 ⇒④ 2014(H26)年 8月 国重要文化財に指定(重源狭山池改修碑 等)
 ⇒⑤ 2014(H26)年 9月 世界かんがい施設遺産に登録(狭山池)
 ⇒⑥ 2015(H27)年 3月 国史跡に指定(狭山池)
 ⇒⑦ 2017(H29)年 3月 都市・地域再生等利用区域に指定(狭山池周辺)
 ⇒⑧ 2017(H29)年度～ ファシリティマネジメントによる点検
 ⇒⑨ 2019(H31)年 1月 中間答申

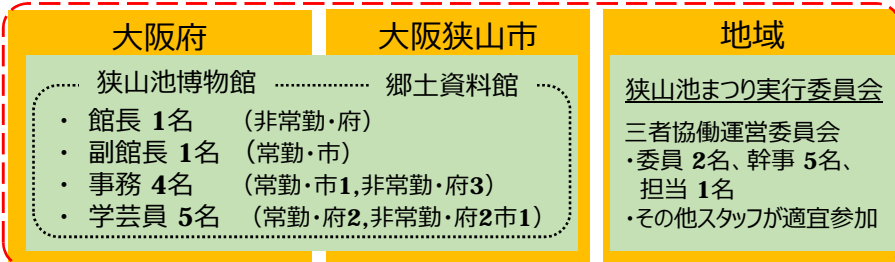


② 財政再建プログラム(案)における事業見直し

- ・市との共同運営等による施設の有効活用
- ・施設の有料化、開館日の縮小などの経営改善方策による運営の一層の効率化
- ・ボランティアとの連携により地域協働を積極的に推進する

③ 三者協働運営開始

・財政再建プログラムを受け、運営体制の変更



狭山池博物館ボランティア
 ・博物館の運営に関してボランティアで「協力」「支援」
 ・単なるサービスの提供だけでなく、生きがいや誇りをもって活動に従事し、地域に強く魅力を発信。

⑦ 都市・地域再生等利用区域の指定(狭山池周辺)

- ・2011年(H23)年の河川敷地占用許可準則の改正で、河川管理者が地域の要望をもとに区域指定することにより、河川敷地での営業活動が可能となり、**狭山池周辺で指定**

⑧ ファシリティマネジメントによる点検

- ・府有施設の総量最適化・有効活用に関する施設の点検・検討が実施され、更なるコスト縮減策と新たな歳入確保に向けた方策を検討して方針が決定するまでの間、施設の予防保全が保留されることとなった
- ・その後、審議会の間中答申を受けて、**当面の間予防保全が実施**されることとなった

⑨ 中間答申

- ・**効果的・効率的な運営に向けた取組みの方向性が示された**

運営体制	府	三者協働(府・市・地元)
企画運営	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館が事業を計画・実施。 ・運営協議会(※)が意見・提言。 ・収入=喫茶スペースの貸出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三者が事業を計画・実施 また、市郷土資料館、協働運営委員会の主催事業も増加 ・運営協議会(※)が意見・提言(H24年度からは運営審議会となり評価も実施) ・収入=喫茶スペースの貸出、会議室・特別展示室・ホール・水庭などの貸出(H21年度～)

※ 狭山池博物館運営協議会・・・博物館法(第20条)に準拠した機関。(平成24年より条例による附属機関である、狭山池博物館運営審議会に移行)運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対し意見を述べる。

2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

1. 狭山池博物館の意義と目指すもの (ここにしか無い"土木"とまちのシンボル)

西暦	1997	~	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	~	202x	~
平成	9		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
	建設着手		開館										財プロ		史跡指定		区域指定		大規模修繕着手						
運営体制	府										三者協働 (府・市・地元)						三者協働 (+α)								

意義 狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容と意義を後世に伝える

土木の役割・意義の発信と将来に向けた展開・発展

土木の歴史的価値の継承

■ 狭山池の歴史を通じ過去の土木技術を伝える

・ 貴重な歴史遺産と土木技術、土地開発史として歴史と文化の継承の意義を高め、保存技術を駆使し後世に広く伝えるとともに、狭山池研究成果を発信する。

⇒ ・ 先人たちが地域の安寧と発展に注いだ熱い思いの伝承

<土木技術者へのメッセージ>
<狭山池の歴史の伝承>

・ 土木事業やかんがい事業の意義の訴求
<土木への府民理解の推進>

⇒ 歴史的ダム保全事業により
土木主体の博物館を建設

【土木主体の博物館としては日本で唯一】



堤体断面展示

<博物館建設成功の因>

- ・ 狭山池が土木工事の歴史的遺産
- ・ 産・学・官の連携による建設
- ・ 地元からの期待と支援 (地域の財産)
- ・ 国の理解と支援 (土木事業への期待)
- ・ トップの歴史・文化的センス (土木博物館)
- ・ 時代背景 (好景気・公共事業費の上昇)

重源狭山池改修碑 (国重要文化財)



土木事業・土木技術の歴史
「知」の交流・発信拠点

防災教育
拠点

現在の文化、人の交流の場として活用
まちのシンボリック資産となり、
まちの価値を高める

地域魅力創造

■ 国史跡狭山池の持つ多面的価値を活用する

・ 「まちのシンボリック資産」価値の創造 (ブランディング)
(安藤建築、日本最古のダム式ため池)
<地域価値の創造>

・ 地域協働、郷土学習、狭山池散策、観察など多様な目的を持つ主体が集う場の形成
<文化、人の交流拠点創造>

史跡狭山池が地域の財産である
という共通理解の意識醸成



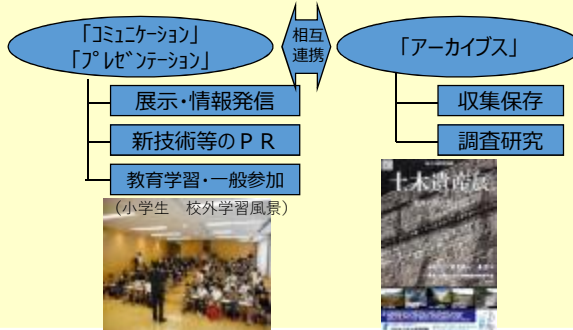
■ 狭山池築造で駆使された土木の歴史を踏まえ、土木の価値・機能を発信する

- ・ 土木事業・技術の広報
- ・ 新たな土木技術の発信

⇒ <将来を担う技術者の育成>

・ 収集保存機能の強化、調査研究の推進
<アーカイブス整備>

・ 防災インフラの価値発信
・ 生涯学習・学校教育支援
<防災教育拠点化>



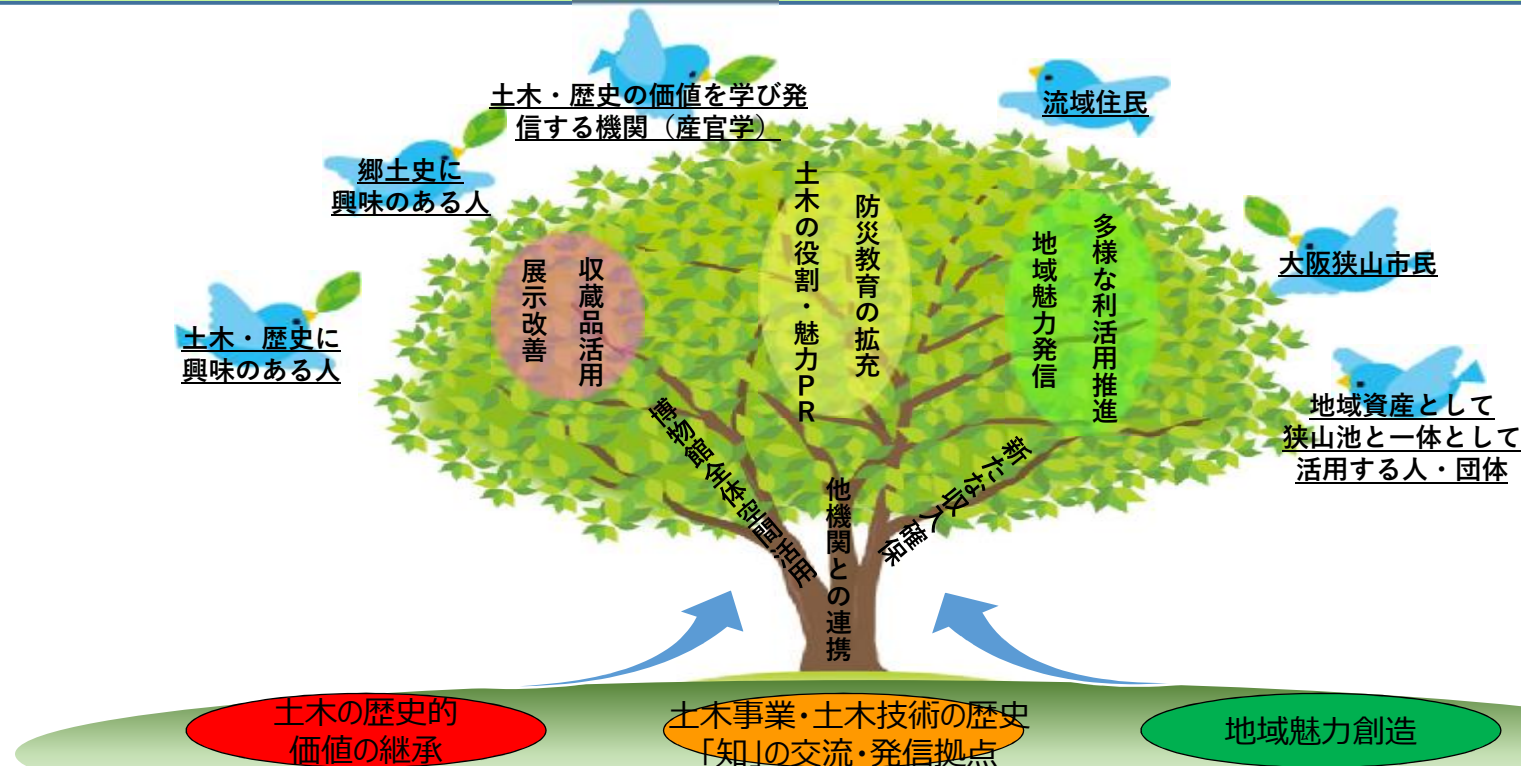
2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

効果的・効率的な運営に向けた3つの基幹的な取組

狭山池博物館の効果的・効率的な運営の実現のために、以下の3つの取組みを行い、博物館の魅力を向上させ、来訪者を増やすことによって、さらに効果的・効率的な運営システムを確立する。

- (1) 他機関と連携した新たな企画による来訪者数の向上（効率的な博物館運営）
- (2) 博物館全体の空間の多様な主体による利活用（施設の効果的活用）
- (3) 中長期の取組み実現に向けた新たな収入（自主財源）確保

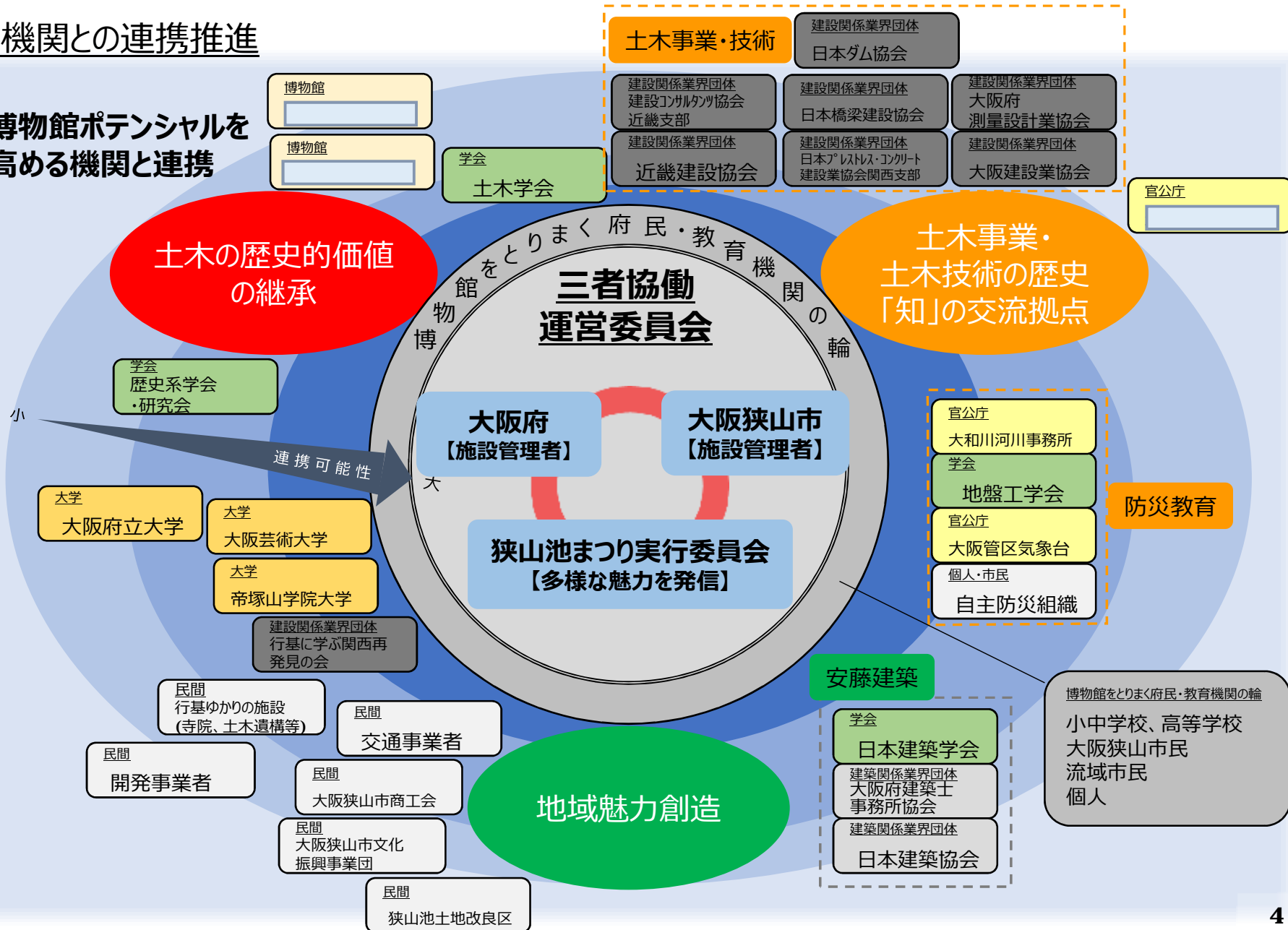


2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

他機関との連携推進

博物館ポテンシャルを高める機関と連携

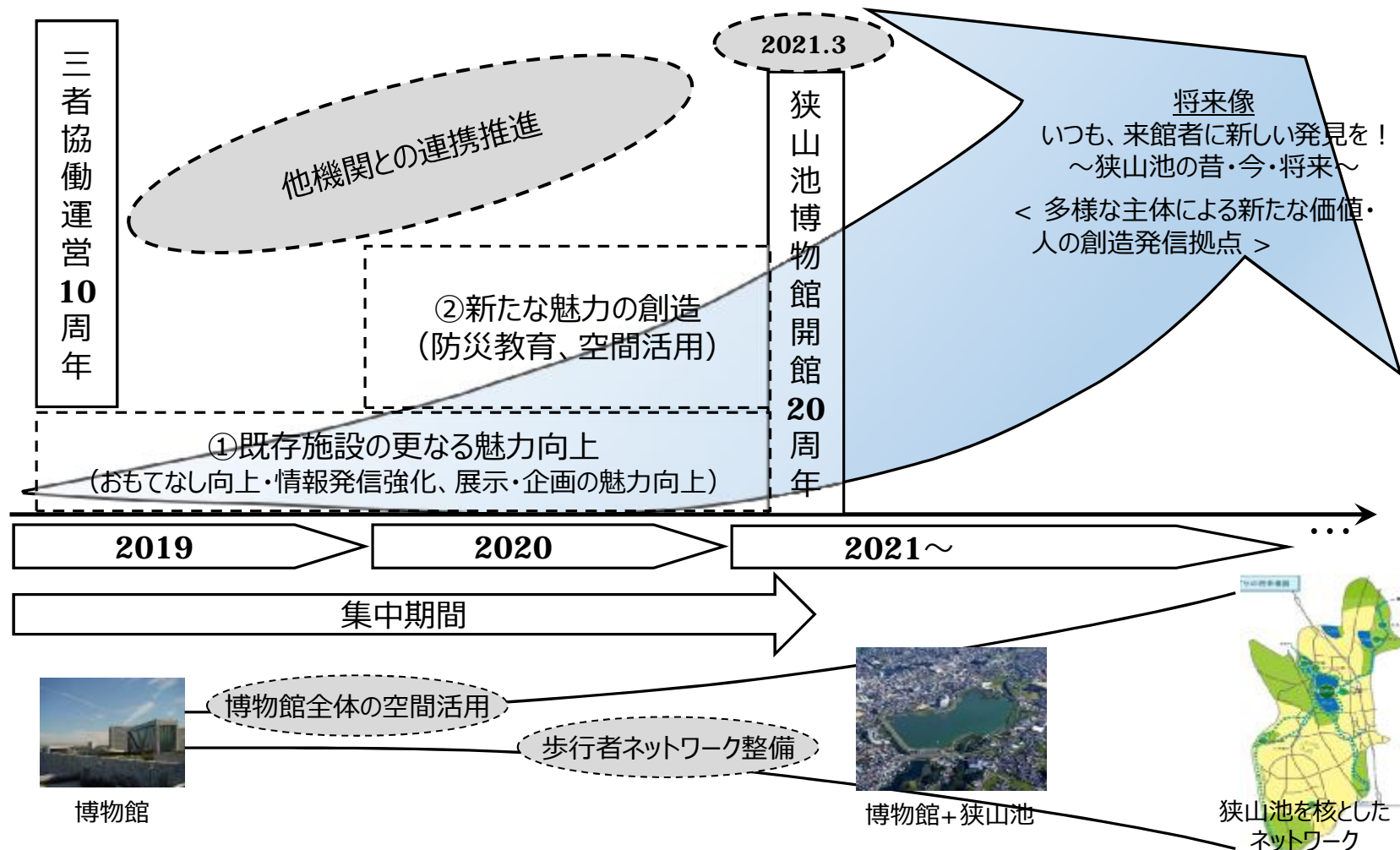


2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

今後の博物館の運営展開

博物館開館20周年となる2020年度末までの期間を集中期間と位置付け、既存施設の更なる魅力向上（来館者への魅力増進）と新たな魅力の創造（潜在的利用者層の掘り起こし）を行いながら、狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近軸けるよう、時間軸を意識した展開を行っていく必要がある。

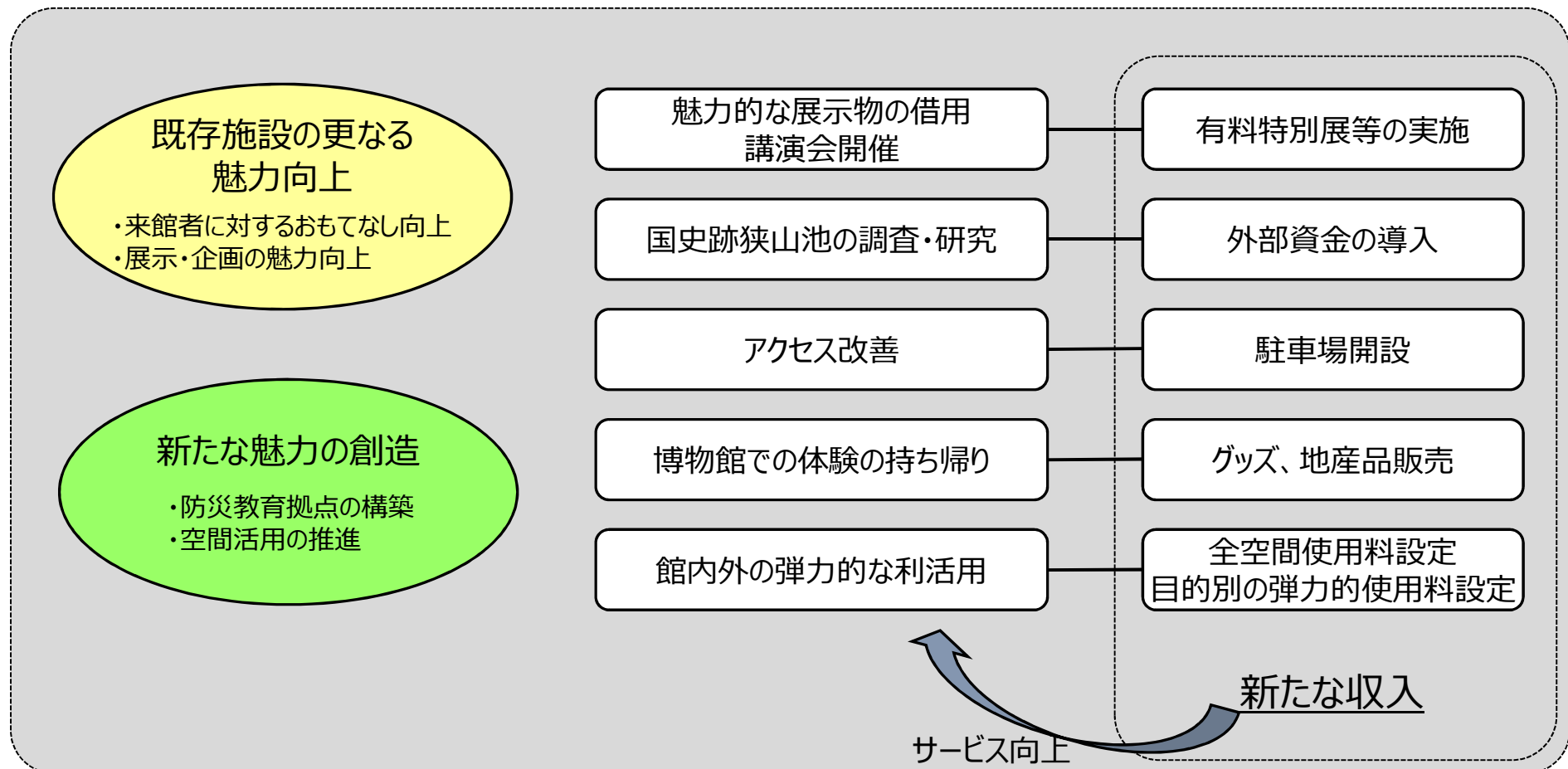


2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

継続的な博物館の魅力向上に向けて（好循環型運営の実施）

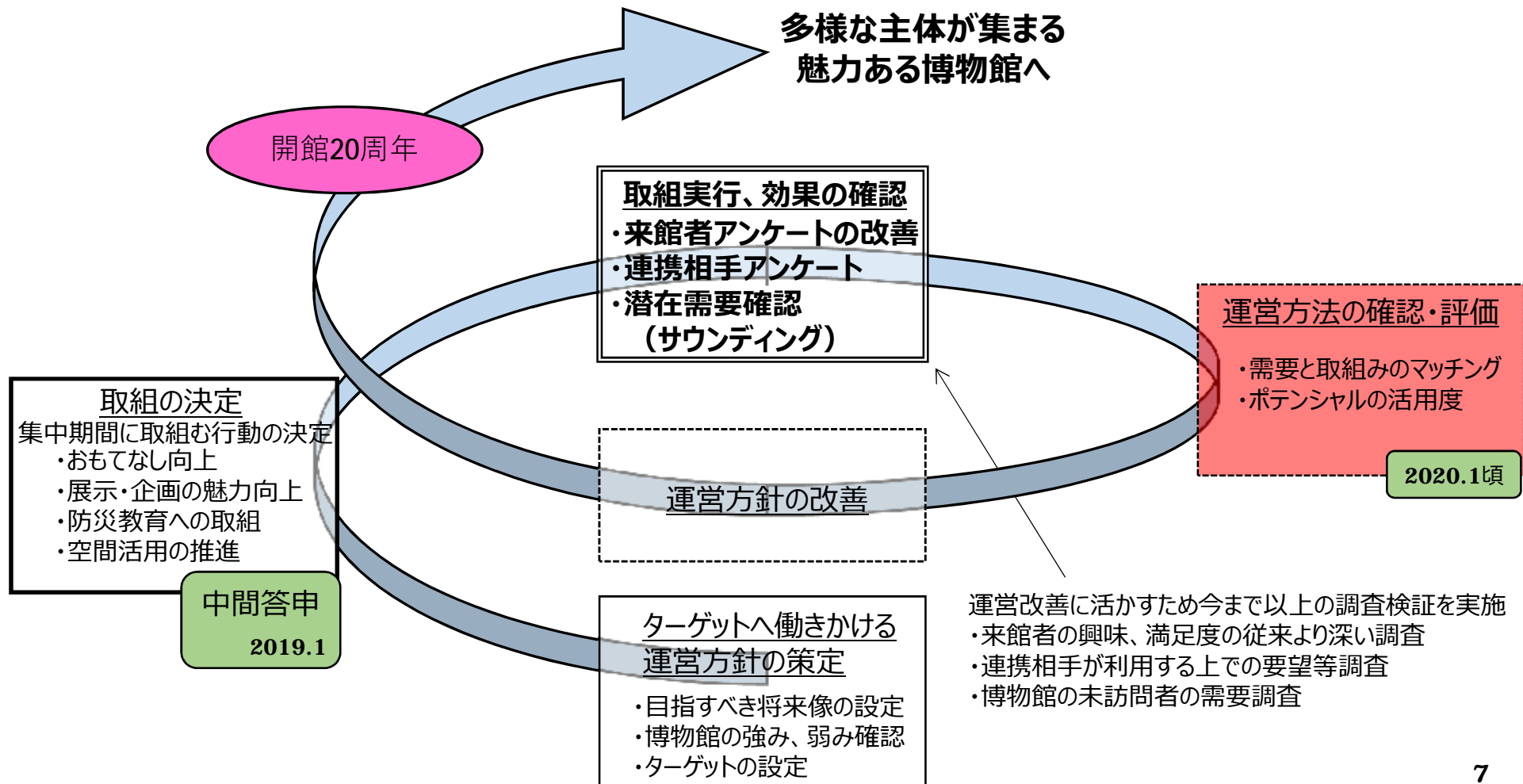
既存施設の更なる魅力向上、新たな魅力の創造に資する取組みを通じ得られた新たな収入を、更なるサービス向上に活かし、好循環型運営へと繋げる。



2. 中間答申の概要

※H31.1 「中間答申」抜粋

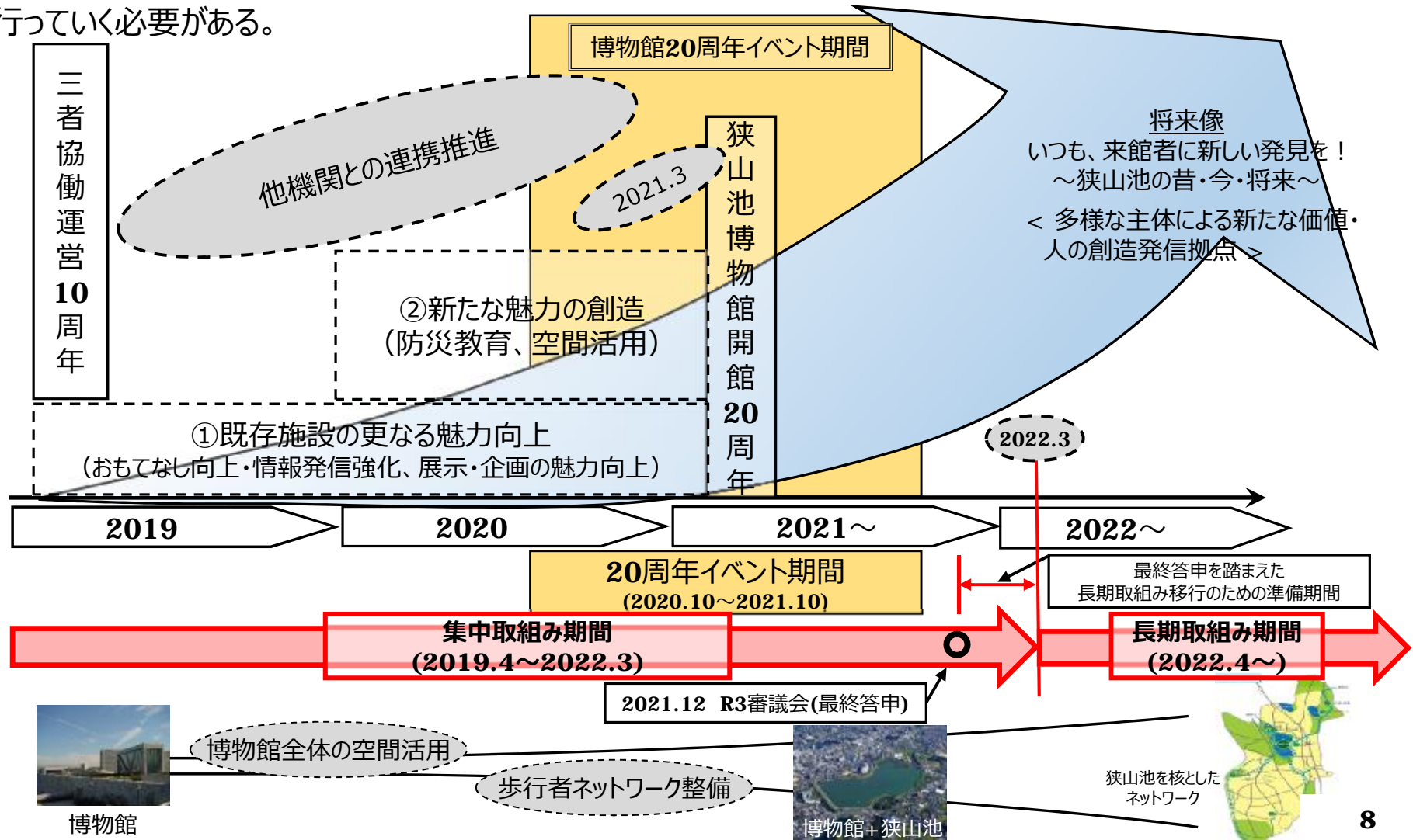
来館者の需要を従来より深く分析（顕在需要の確認）、さらに府民が博物館に求めているものを調査（潜在需要調査）し、分析結果を運営方針に反映させ、狭山池博物館をより魅力あるものにするサイクルを確立する。



3. 今後の運営展開の変更について

今後の博物館の運営展開

博物館開館20周年に実施するイベント終了後の2022年3月末までの期間を集中期間と位置付け、既存施設の更なる魅力向上（来館者への魅力増進）と新たな魅力の創造（潜在的利用者層の掘り起こし）を行いながら、狭山池博物館が目指すべき姿に確実に近づけるよう、時間軸を意識した展開を行っていく必要がある。



4. 取組み目標と成果指標の設定

効果的・効率的な運営に向けた具体的な取組みを行うにあたり、目指すべき姿（長期目標）と集中取組み期間の目標（短期目標）を設定し、その実現に向けて取組みを実施する。

目的・(ターゲット)	目指すべき姿	長期目標	短期目標	長期指標 (案)
<p>【土木の歴史的価値の継承】</p> <p>◆狭山池の歴史を通じ、過去の土木技術を伝える</p> <p>⇒狭山池と土木の「歴史」を知ってもらう</p> <p>(一般)</p>	<p>狭山池の歴史的価値・改修の歴史・「平成の大改修」の内容・意義と土木の歴史を後世に伝える博物館</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的価値の向上 博物館からの情報発信 誰もが理解できる展示物 集客力の向上 	<p>◆発信・おもてなしの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺構、史跡の調査研究 HPの充実 SNSの活用 展示解説の改良 多言語対応 展示と現地(池)の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数10%増 インバウンド30%増 展示満足度90%維持 認知度50%達成 HP、SNSの反応 連携体制の確立 学会:○団体 企業:○団体 公共:○団体 歴史関連イベント回数 ○%増
<p>【土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点】</p> <p>+【防災発信拠点】</p> <p>◆土木の価値・機能や様々な防災情報を発信</p> <p>⇒「土木」「防災」を知ってもらう (土木技術者・若年層)</p>	<p>土木の役割・意義を発信する日本で唯一の土木の博物館</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古代から現在の土木技術の集積 土木の役割と魅力の発信拠点 防災情報の発信拠点 土木への理解/土木技術者の育成 防災力向上 	<p>◆連携の基盤構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 土木、防災団体との連携体制構築 学校、教育委員会との連携体制構築 土木技術の情報発信イベントの継続と拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 土木関連イベント回数 ○%増 防災関連イベント回数 ○%増 地域活性化イベント回数 ○%増 アーカイブのデータ数○点以上 博物館のイメージアップ 魅力を感じる割合○% (市民意識調査) 「水とみどりのネットワーク」構想の実現 インフラツーリズム○回/年開催
<p>【地域魅力創造】</p> <p>⇒「まち」を知ってもらう (市民)</p>	<p>まちの価値を高める「シンボル」としての博物館</p>	<ul style="list-style-type: none"> 博物館の認知度・自慢度向上 博物館の「まちのシンボル」化 狭山池公園内の施設としての活用 狭山池を中心としたまちづくり 	<p>◆基本方針の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体での広報 博物館での多様なイベントの継続と拡充 まちづくり基本構想の検討 狭山池周辺の回遊性向上 	
<p>自主財源の確保</p>	<p>好循環型運営の実施</p> <p>(自主財源を活用し目指すべき姿を達成するために必要な事業(企画)や維持管理を安定的に行う)</p>	<p>博物館運営費としての自主財源確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展示有料化 駐車場運営形態の検討 会議室等の稼働率アップ 博物館の応援団づくり グッズ販売の手法確立 外部資金の調達 	<p>・令和2年度の検討内容を踏まえて設定予定</p>

4. 取組み目標と成果指標の設定

< 短期目標 >		過年度より取組み、R1に継続・拡大したもの	R1新たに実施したもの	R1に着手しR2以降に実施するもの	集中取組み期間に取組むもの	集中期間以降に取り組むもの	指標(案)	
土木の歴史的価値の継承	◆発信・おもてなしの充実							
	・遺構・史跡の調査研究	・常設展示 ・学術調査の実施 ・ボランティア企画展 ・古文書講座					・展示解説の更新	
	・HPの充実		・館内ストリートビュー掲載 ・「OsakaFree Wi-fi」の整備	・ホームページ改良				
	・SNSの活用			・SNSによる情報発信 ・来館者によるSNS発信の誘導				
	・展示解説の改良		・わかりやすいリーフレット作成	・QRコードの活用	・音声ガイドの更新		・展示模型の制作 ・VR,ARを活用した展示	・来館者数10%増 ・インバウンド30%増 ・展示満足度90%維持 ・認知度50%達成 ・HP、SNSの反応
	・多言語対応 ・展示と現地(池)の一体化		・英語版リーフレットの作成	・展示解説の多言語化(英・中・韓) ・史跡ネットワーク ・ダムネットワーク				・連携体制の確立 学会:○団体 企業:○団体 公共:○団体 ・歴史関連イベント回数 ○%増 ・土木関連イベント回数 ○%増 ・防災関連イベント回数 ○%増 ・地域活性化イベント回数 ○%増 ・アーカイブのデータ数 ○点以上 ・博物館のイメージアップ 魅力を感じる割合○% (市民意識調査)
土木事業・土木技術の歴史「知」の交流・発信拠点	◆連携の基盤構築							
	・土木、防災団体との連携体制構築		・NPOとの連携(小中学生向けイベント) ・JICAとの連携 ・民間団体との連携(イケフェス)(安藤建築) ・気象台との連携(防災講座)(防災展示) ・土木関係団体との連携(土木遺産展)	・建築関係団体との連携(建築見学会)		・土木関係団体(ミニ建設技術展)	・歴史関連イベント回数 ○%増 ・土木関連イベント回数 ○%増 ・防災関連イベント回数 ○%増 ・地域活性化イベント回数 ○%増 ・アーカイブのデータ数 ○点以上 ・博物館のイメージアップ 魅力を感じる割合○% (市民意識調査)	
	・学校教育委員会との連携体制構築		・大阪狭山市教育委員会との連携(教職員・小学生)	・小中学校との連携(防災講座) ・小中学校との連携(土木技術)			・防災関連イベント回数 ○%増 ・地域活性化イベント回数 ○%増 ・アーカイブのデータ数 ○点以上 ・博物館のイメージアップ 魅力を感じる割合○% (市民意識調査)	
	・防災学習教材の作成			・防災教材作成			・所蔵資料アーカイブの整理	・インフラツーリズム ○回/年開催
	・土木技術・防災情報の発信イベントの継続拡充	・土木遺産展 ・狭山池歴史ウォーク	・JICA研修受け入れ ・イケフェスの実施 ・防災講座実施(一般向け)(教員向け) ・防災パネル展示(大阪府) ・土木遺産展実施 ・狭山池歴史ウォーク実施	・土木講座(小中学生) ・建築見学会の実施 ・防災講座実施(小学生向け) ・防災パネル展示(気象台)	・ゲーム等を活用した防災教育			
・アーカイブの整備								
地域魅力創造	◆基本方針の確立							
	・様々な媒体での広報		・行基イベント活用(連絡会での情報提供) ・クリーンキャンペーンの実施(エフエム大阪) ・各種取材対応					
	・博物館での多様なイベントの継続と拡充	・フレッシュコンサート ・書道展 ・わくわくイベント ・写真展 ・狭山池まつり	・インフラツーリズム(行基関連)(ツーリスト) ・マンホールカード配布	・20周年記念イベント(※) ・地域イベントでの博物館活用				
	・まちづくり基本構想の検討 ・狭山池周辺の回遊性の向上		・「水とみどりのネットワーク」構想の検討 ・狭山池南側アンダーパス整備(※)					
自主財源確保	◆自主財源の確保							
	・展示有料化の詳細検討			・アンケートによる有料化の可否、料金設定の検討				
	・駐車場運営形態の検討			・大阪狭山市による駐車場一体運営について協議継続				
	・会議室等の稼働率アップ			・会議室等の貸出に関する周知方法の見直し ・企業から寄付 ・クラウドファンディングの活用 ・手法確立に伴い、販売開始				
	・博物館応援団づくり							
	・グッズ販売手法の確立							
・外部資金の調達	・補助金、助成金の調査と申請	・補助金、助成金の調査と申請						

(※)：単発の取組み

5. 取組み状況の報告 (2019年度末)

【土木の歴史的価値の継承】

展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化

- 短期目標○ ◆発信・おもてなしの充実
- 【遺構、史跡の調査研究】【HPの充実】【SNSの活用】
- 【展示解説の改良】【多言語対応】【展示と現地の一体化】

① 既存施設の更なる魅力向上

従来の調査研究に加え、幅広い層が理解しやすい館内案内や、ホームページの改良による発信力の強化を実施

【新たな取組み】

- ・わかりやすいリーフレットの作成
- ・ホームページ改良



ホームページイメージ (作成中)



リーフレット

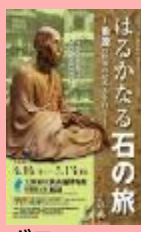
(子供向け表記) + (英語表記)

【継続した取組み】

- ・学術調査の実施
- ・狭山池等の調査・研究



特別展



ボランティア
企画展



古文書講座

② 新たな魅力の創造

博物館の展示と現地(池)が一体化する「国史跡狭山池(ダム)」の解説板設置に向けたデザイン、仕様の検討を実施

【新たな取組み】

- ・史跡、ダムの解説板のデザイン、材質などの仕様を検討



イメージ



↑ 現地での説明



← 対応する展示物の館内写真など

5. 取組み状況の報告 (2019年度末)

【土木事業・技術の歴史・「知」の交流・発信拠点】

土木の役割・魅力PR、防災教育の拡充

- 短期目標 ○ ◆連携の基盤構築
- 【土木、防災団体との連携体制構築】
- 【学校、教育委員会との体制構築】
- 【土木技術の情報発信イベントの継続と拡充】

① 既存施設の更なる魅力向上

- ・各種業界団体、官公庁などと連携した新たな取組みの実施による多様な来館者の創出
- ・博物館と周辺施設を結び付けた魅力の創出

【新たな取組み】

- ・JICA研修
- ・生きた建築ミュージアムフェスティバル



【継続した取組み】

- ・土木遺産展
- ・狭山池歴史
ウォーク



② 新たな魅力の創造

気象台、大阪狭山市教育委員会と連携した講座や小学校への出前防災講座など、新たに「防災情報」発信を実施。継続した連携体制を構築

【新たな取組み】

- ・防災講座開催
- ・防災パネル展示
- ・小学生向け防災教育



防災パネル展



防災講座



小学生向け防災教育

5. 取組み状況の報告 (2019年度末)

【地域魅力創造】

地域魅力発信、多様な利活用の推進

○短期目標○ ◆基本方針の確立

【様々な媒体での広報】【博物館での多様なイベントの継続と拡充】
【基本構想の検討】【アンダーパスの整備】

① 既存施設の更なる魅力向上

狭山池だけでなく、他の事業との連携や、多くの地に縁のある行基つなぎなどで多くの団体と連携、情報共有によるPRを行った。

【新たな取組み】

- ・行基イベントの活用
- ・インフラツーリズム



行基イベント



インフラツーリズム

【継続した取組み】

- ・フレッシュコンサート
- ・書道展
- ・わくわくイベント
- ・写真展
- ・狭山池まつり



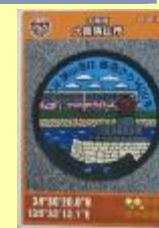
② 新たな魅力の創造

マスコミとのコラボイベント、著名人の博物館取材など、効果的なPRや市事業ともコラボしたカード配布の実施

【新たな取組み】

- ・エフエム大阪とのコラボによる「クリーンキャンペーンin 狭山池」
- ・中田英寿氏(サッカー元日本代表)の取材
- ・マンホールカードの配布
- ・狭山池の回遊性向上 (大阪狭山市によるアンダーパス整備)

[著名人による取材状況写真]



5. 取組み状況の報告 (2019年度末)

【新たな収入の確保】

○短期目標○

【展示有料化】【駐車場運営形態の確立】

【会議室等の稼働率アップ】【グッズ販売手法の確立】

【外部資金の調達】

R元年度取組み内容

【展示有料化の詳細検討】

- ・現在実施している展示のうち、特別展示に絞って有料化を検討する方針とした

【駐車場運営形態の検討】

- ・効果的な運営を考え、大阪狭山市で検討している駐車場有料化との一体運営を検討中

【会議室等の稼働率アップ】

- ・周辺との料金差は約30%の安価
- ・料金改定により来館者の減員が見込まれる
- ・H30年度の有料施設稼働率は年間約5%
- ・博物館の収入増及び来館者増という観点では、現在の料金差をポジティブにとらえ、会議室の稼働率を向上させることが優先と判断

【グッズ販売手法の確立】

- ・販売物品選定、販売手法等について検討中

【外部資金の調達】

- ・学芸員による民間財団への助成金申請

5. 取組み状況の報告 (2019年度末)

○来館者アンケート

- ・具体的な取組みの実施による変化を捉えるため、アンケートの改善内容の検討
- ・現アンケートの課題を抽出（年々増加する外国人観光客への対応、回収率の向上）
- ・新たに取組んだ「防災講座」などでは、今後の改善につなげるため別途アンケートを実施。
〔取り組みに対する反応は良好、防災講座などにおいては次回講座をしてほしい内容についての要望を確認することができた。〕

○連携相手アンケート

- ・連携した団体からは、取組みに対して良好な反応をいただいております、次年度以降も引き続き取組みを実施したいとの意向を確認できた。
- ・連携が実現しなかった団体には、問題点、改善点について確認を行った。
（専門的なスタッフの不足、施設の立地など）

○潜在需要確認

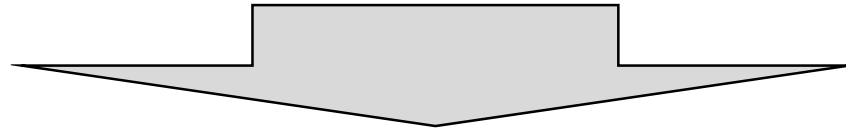
- ・来館者だけでなく、広く対象の範囲を広げたアンケートの手法について検討
- ・次年度に府政モニター活用による意識調査を実施するべく、関係機関との調整と、調査内容の整理を実施。

6. 取組みに対する自己評価

○令和元年度の取組みに対する評価

(取組み内容)

- 「古文書講座」「狭山池歴史ウォーク」「フレッシュコンサート」など**既存の取組みの「継続」と「拡大」**による、来館者の定着と増員につながる取組みを実施
- 子供、外国人に向けたパンフレットの作成など、**既存の取組みの「改良」**による来館者の増員につながる取組みを実施
- 防災講座や建築系イベントの実施など**新たな取組み**による多様な来館者の創出につながる取組みを実施



- ・防災講座参加者へのアンケートにおいて**50%以上**の方が「気象のことがよく分かった」「これまでの知識が間違っていることを知った」「このような機会があればまた参加したい」との感想をいただくなど、新たな取組みへの**反応は良好**であり、次年度以降も継続が必要と判断できた。
- ・建築系イベントにおいて、参加者より「安藤建築に関する説明が少ない」との要望があったがそれに対応できるスタッフが現体制では確保できておらず、スタッフ確保、説明方法の工夫など、**新たな取組みに伴って生じるニーズについて認識**することができた。
- ・小学生向け土木技術イベントは対象となる小学校との開催時期等の調整が整わず、**早期の連絡・調整が必要であることを認識**した。一方で、連携する**NPO団体との次年度につながる関係性の構築**はできた。

7. 今後の集中取組み期間とその後の進め方

【テーマ】

いつも来館者に新しい発見を！～狭山池の昔・今・将来～

○今後の集中期間の進め方

- 短期目標の達成に向け、これまでの展開をさらにブラッシュアップして推進するとともに新たな取組みを実施
- **開館20周年にあたる令和3年3月28日**を中心とした1年(令和2年10月～3年10月)をシンボルイヤーとして、**20周年を記念した各種イベントを企画・実施**
- 20周年イベントが終了し、審議会開催後の令和4年3月までを集中取組み期間とし、4月以降は**目標を短期から長期へ移行**
- 長期目標に対する取組みの**成果を測る指標を検討**する。

(取組み内容)・既存の取組みの着実な**継続実施**
・展示解説の多言語化など既存の取組みの**改良実施**
・建築ガイドが可能な人材を擁する団体との連携を目指すとともに、現スタッフでの対応を可能とする資料の作成など、**認識されたニーズに対応**し更なる来館者の創出を目指す
・新たな連携先を含め、関係者との調整を密にし、**各取組みを確実に実施**
・展示有料化や駐車場運営など**新たな収入の確保のための検討**
・**長期的な目標と指標の検討**

○その後の進め方

- 長期目標に対する指標の設定
- 需要分析と新たな取組みの実施、検証による**PDCA**を繰り返し、魅力あるサイクルを確立
- 自主財源の確保による継続的な魅力向上（好循環型運営）を目指す

8. 令和2年度以降の具体的な取組み

【土木の歴史的価値の継承】

展示改善・収蔵品活用による魅力向上と発信強化

- 短期目標 ○ ◆発信・おもてなしの充実
- 【遺構、史跡の調査研究】【HPの充実】【SNSの活用】
- 【展示解説の改良】【多言語対応】【展示と現地の一体化】

① 既存施設の更なる魅力向上

近年増加している海外からの来館者に向けた発信強化に取り組む。

- ・常設展示解説の多言語化
- ・Webの活用による解説の充実



Osaka Free Wi-fi 整備済み
(令和元年度)

[ガイドアプリ
ホームページ画像]

スマートフォン等による
解説の閲覧イメージ

【継続する取組み】

- ・ホームページ改良



QRコードを活用した
現地とのリンク

パソコンのほかスマートフォンなどの
閲覧にも対応

- ・狭山池等の調査・研究（企画展・講座）

② 新たな魅力の創造

解説板のデザイン、仕様について関係機関と調整し、現地への設置を行う。また、SNSを活用した博物館情報の発信強化に取り組む。

- ・史跡、ダム説明板の設置



- ・SNSの活用



8. 令和2年度以降の具体的な取組み

【土木事業・技術の歴史・「知」の交流・発信拠点】

土木の役割・魅力PR、防災教育の拡充

- 短期目標 ○ ◆連携の基盤構築
- 【土木、防災団体との連携体制構築】
- 【学校、教育委員会との体制構築】
- 【土木技術の情報発信イベントの継続と拡充】

① 既存施設の更なる魅力向上

様々な連携相手との関係性を構築し、新たな取組みを企画・実施することにより、多様な来館者を創出する。

- ・NPO団体との連携により、小中学生を対象とした土木の魅力を紹介する講座の開催
- ・建築関係団体との連携による建築物の見学

[土木の魅力紹介出前講座状況写真]

出前講座

建築物をメインとした見学会



【継続する取組み】

- ・JICA研修、生きた建築ミュージアム フェスティバル
- ・狭山池歴史ウォーク
- ・土木遺産展

② 新たな魅力の創造

R2年度からの新学習指導要領において、小学校で防災教育の授業が充実されることから、一般・教職員から児童へも対象を拡げていく。

- ・防災学習教材の作成
- ・防災講座開催
(小学生向け)



教材イメージ



防災講座

【継続する取組み】

- ・気象台と連携した防災講座
(一般向け、教職員向け)
- ・防災パネル展示

8. 令和2年度以降の具体的な取組み

【地域魅力創造】

地域魅力発信、多様な利活用の推進

① 既存施設の更なる魅力向上

令和3年3月の博物館開館20周年とその前後の期間において、多くの方に来館していただけるよう、様々なイベントを企画・実施する。

- ・20周年記念として、特別講演会、シンポジウム、企画展示などを実施する
- ・既存の各種催しにおいても、「20周年」を意識した取組みに協力いただき、メモリアルイヤーを盛り上げる



講演会イメージ



式典イメージ

【継続する取組み】

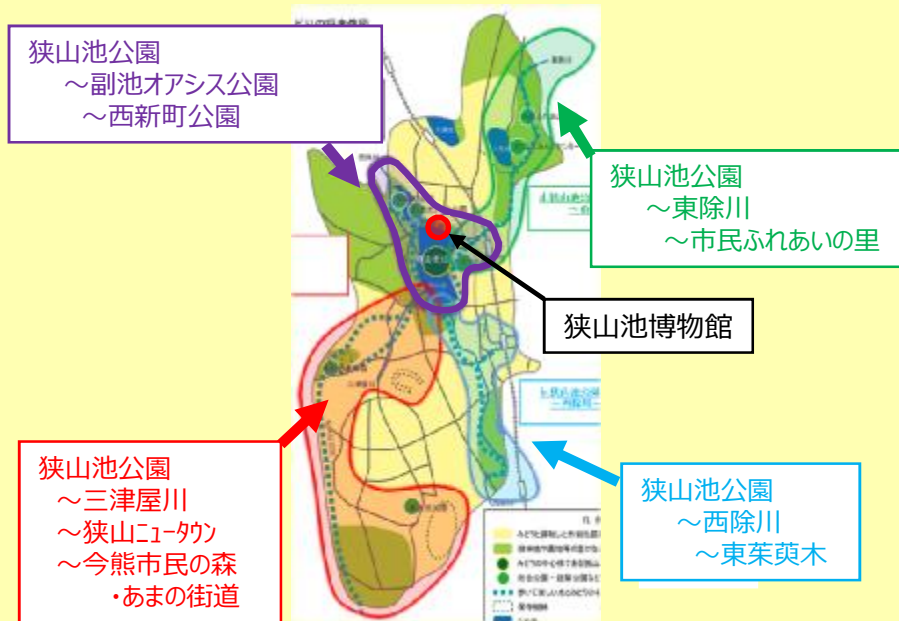
- ・フレッシュコンサート
- ・わくわくイベント
- ・行基イベントの活用
- ・インフラツーリズム

○短期目標○ ◆基本方針の確立

- 【様々な媒体での広報】【博物館での多様なイベントの継続と拡充】
- 【基本構想の検討】【アンダーパスの整備】

② 新たな魅力の創造

大阪狭山市と連携し、市が進めるまちづくり構想の検討に合わせて協議・調整を行い、まちづくりと一体となった運営方針を市と共有する



【継続する取組み】

- ・クリーンキャンペーン in 狭山池 (EFM大阪コラボ)
- ・マンホールカードの配布

8. 令和2年度以降の具体的な取組み

○来館者アンケート

- ・従前の博物館と比べて「良くなった点」と「悪くなった点」についての自由記載欄を設け、取組みの検証と改善につなげる
- ・外国人向けアンケートを作成し、増加する外国人来館者のニーズを把握する
- ・新たな取組みとして実施している、「防災講座」など常設展示でないものについては、別途アンケートを実施し、感想及び意見・要望を把握して、改善につなげる
- ・苦情、要望項目について、「駐車場、駐輪場の案内」「施設内の順路の明示（入り口までの通路含む）」など取組み可能で効果的なものから対応し、利用者満足度の向上を図る
- ・アンケート回答者にノベルティを配布するなど、アンケート回答率をアップさせる取組みを検討

○連携相手アンケート

- ・連携相手には「連携によるメリット」「継続のための改善点」などの確認のためアンケートを実施する
- ・アンケートにより具体的なニーズ、改善点などを確認し、今後の取組みに反映
- ・連携できなかった団体に対しては、課題となった要素の確認と今後の改善が可能かどうかの分析を行い、次回への協議につなげる

○潜在需要確認

- ・来館者だけでなく、多くの方を対象に意識調査を行うために、府政モニターの活用を検討
- ・モニターへのアンケートに複数の取組み案を掲載し、アンケートの結果より潜在需要を確認する
- ・また、興味を多く抱かれるような項目については実際に取組み、新たな来館者の創出を図る

8. 令和2年度以降の具体的な取組み

【新たな収入の確保】

○短期目標○

【展示有料化】【駐車場運営形態の確立】【会議室等の稼働率アップ】
【博物館の応援団づくり】【グッズ販売手法の確立】【外部資金の調達】

R元年度取組み結果	R2年度取組み方針	収入の活用	
<p>【展示有料化の詳細検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在開催している展示のうち、特別展示に絞って有料化を検討する方針とした 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展示観覧者にアンケートを実施。その結果を分析し有料化の可否、料金の設定を検討 ・料金徴収に伴い必要となる機器設置や人件費などを勘案し、有料化のメリット、デメリットを再整理し検討 	府費の狭山池博物館運営事業費として館の運営に活用	
<p>【駐車場運営形態の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な運営を考え、大阪狭山市で検討している駐車場有料化との一体運営を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・市と協議を継続 (「市の敷地占用」による駐車場運営を打診) 		
<p>【会議室等の稼働率アップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺との料金差は約30%の安価 ・料金改定により来館者の減員が見込まれる ・H30年度の有料施設稼働率は年間約5% ・博物館の収入増及び来館者増という観点では、現在の料金差をポジティブにとらえ、会議室の稼働率を向上させることが優先と判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの会議室検索システムへの情報提供、土木系の学会向けチラシの配布など、多くの利用者の選択肢に選ばれるための手法を検討・実施し、稼働率の向上を目指す ・これにより、料金の改定については今後検討する 		
<p>【博物館応援団づくり】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等からの寄付やクラウドファンディングの活用を検討 		
<p>【グッズ販売手法の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売物品選定、販売手法等について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討内容について関係者の承諾を得て、販売の開始を目指す 		三者協働委員会の活動に活用
<p>【外部資金の調達】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員による民間財団への助成金申請 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館が対象となる補助金、助成金の調査と申請 ・民間財団への助成金の申請 		学芸員の調査研究に活用

8. 令和2年度以降の具体的な取組み

○狭山池博物館開館20周年の取組みについて（案）

テーマ： **「狭山池の“昔・今・将来”（仮）」**

メモリアルイヤー取組み期間
R2.10 ~ R3.10

- 20周年の広報やイベントの実施により、多様な魅力を持った「博物館」と、今後目指していく姿を広く発信する
- 概ね4半期ごとに記念イベントを実施するとともに既存イベントとも連携することで活性化を図る
- これらの実施主体となるメンバーによるPTを立ち上げ、具体的な内容について検討する
- 短期取組みの成果確認のためにイベントを活用したアンケート調査の実施など、取組みの検証を行う

【令和元年度】→20周年に向けての整理・調整

◎メモリアルイヤーの期間：

令和2年10月 ~ 令和3年3月28日 ~ 令和3年10月

▼調整事項・・・コンセプトの検討

イベント内容の検討

期間内のスケジュール調整 など

（大阪狭山市や世間一般の世の中の動きなどの整合）

【20周年メモリアルイヤーPTの立ち上げ】

・立ち上げ時期：令和2年2～3月頃

・構成メンバー：博物館、大阪府、大阪狭山市、狭山池まつり実行委員会、ボランティア事務局、ほか・・・

・開催時期：定期開催（2カ月に1回程度）

主なイベントスケジュール（案）

令和2年度

キックオフイベント!!

10月末:クリーンキャンペーンin狭山池
コラボ企画 [狭山池博物館20周年
・エフエム大阪]

3月28日:狭山池博物館20周年記念日
・記念講演開催(安藤忠雄氏)

令和3年度

5月:記念シンポジウム(博物館開館当時のメンバー)

6月:記念フレッシュコンサート(大阪音大)

10月:記念特別展(20年のあゆみ)

例年行われるイベントとのコラボ

R2.10月末～R3.10頃

各種イベントにおいて「20周年記念」を謳っていただくよう依頼
※土木遺産展、歴史講演会、コンサート、マラソン大会 等

3月末～4月中旬:さくらまつり

4月末:狭山池まつり

7月:七夕まつり

8,9月:写真展、絵葉書コンテスト

8. 令和2年度の具体的な取組み

- ・開館20周年のイベント期間を20周年目の3月28日を含む約1年(R2.10~R3.10)と予定しており、短期取組みの最終的な効果の確認がイベント終了時となることから、短期取組み期間をR4.3までと位置付ける。
- ・イベント内容等については「R2年度審議会(2020.8)」において報告予定
- ・各種記念イベント終了までの運営状況をもって「R3年度審議会(2021.12)」を予定

